

# 博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム	申請大学名	東京大学
申請大学長名	濱田 純一		
プログラム責任者	上田 卓也		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学外教員の雇用は準備中であり、産業界との連携もまだ準備段階であるが、国連機関や政府機関及び自治体等との連携は実績があり、全体としては計画を着実に実施しており、所要の体制整備等が確実に進められている。</li><li>・多くの留学生をプログラムに参加させる計画を着実に進めるとともに、多くの国際的な取組を積極的に実施しており、サステナビリティ学の分野においてグローバルに活躍するリーダーの養成が期待される。</li></ul> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・国際研究集会等における研究発表の機会を年1回は保障するなど、計画の改善が図られており、この方針を堅持してほしい。</li><li>・学生の海外でのフィールドワークを資金面で支援する計画は優れているが、反面地域研究に埋没する恐れもあるので、広い意味での国際性を持ち俯瞰力のあるグローバルリーダーを養成するための計画の充実が求められる。</li><li>・民間企業等のインターンシップの場を確保・充実し、国連や政府機関との連携による各種の経験を有効に活かすことにより、本プログラムの修了生が民間企業等でもグローバルリーダーとして活躍できるようにする工夫が求められる。</li><li>・既存のサステナビリティ学教育プログラムを本プログラムにそのまま移行しようとしたために、博士前期課程の半数の学生は博士後期課程に進学しないコース設計になっている。本プログラムの博士課程前期・後期一貫教育の目的を実現するために、博士後期課程進学者を確保するための新たな取り組みをすべきである。</li><li>・教員、連携教員による指導・支援体制が順調に構築・運営されているが、既存のサステナビリティ学教育プログラムを超える、本プログラム独自の先端的な取り組みを積極的に実施する必要がある。</li><li>・既存のサステナビリティ学教育プログラムを引き継いだことにより、大学全体の中長期的構想及び学長を中心としたマネジメント体制が確保されている。</li><li>・産業界との連携を図るための委員会や外部評価体制の整備が求められる。</li><li>・プログラムとして「社会経済システムの設計」という視点が弱いという指摘に対し、計画の変更または改善があまり見受けられない。博士の学位取得後のキャリアパスも含めて更なる検討を求めたい。</li><li>・「柏キャンパスを中心としたフィールドワーク的な研究がどのように俯瞰的知見を高めるのに貢献するか」という点について、今後の成果と共にその明確化を期待したい。</li></ul>			